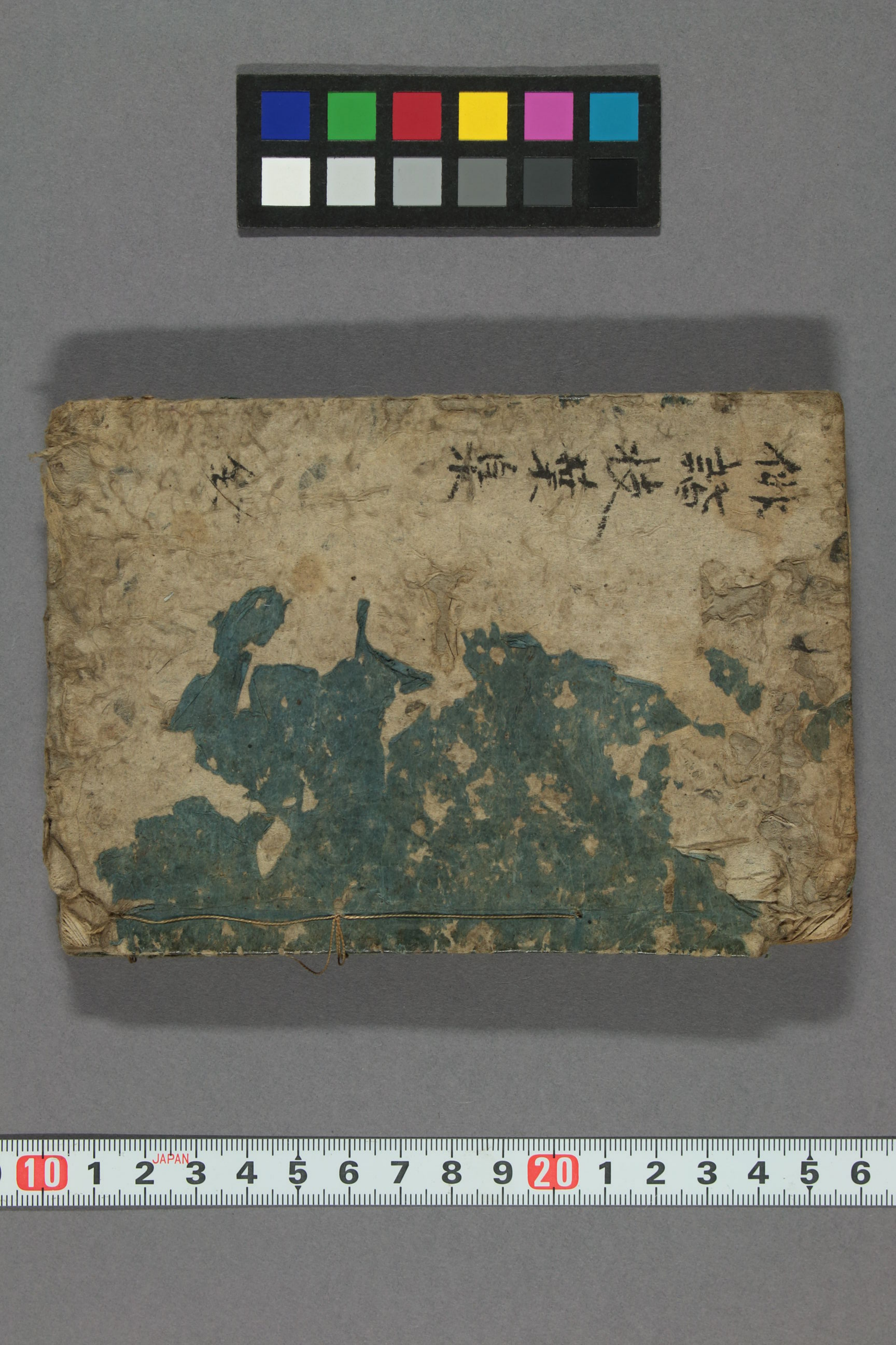

後輩の集所
或人俳諧の書持来りて
此集を見るに
つゝ此句を称し
紫の句を引て
をし鶯の句に
対して是非を

是年第巳如し紀ん
今は俳風世をわりそめ
世をわりそめ
合歓堂北徳

雨雪甫合

宝玉

巻之三

四ノ丁 一 六義の事
十三ノ丁 一 式法の事
十六ノ丁 一 七十二候の事
十六ノ丁 一 歌仙の式法事
十六ノ丁 一 式の事
十五ノ丁 一 句百々仙法の事
九四丁 一 賦物の事
九六ノ丁 一 座席是非の事
六ノ丁 一 数句切字の事
十ノ丁 一 句韻月記定座の事
十六ノ丁 一 十二のの事
十六ノ丁 一 発句の事
十七ノ丁 一 美恵の式の事
十七ノ丁 一 和歌の事
三十五ノ丁 一 歌仙の法の事
九六ノ丁 一 俳諧法の事

五十八ケ条

一 三十二ケ条 ふく薬りの事

一 三十三ケ条 あしたくしほしの事

一 三十三ケ条 治宮薬りこケ条の事

一 四十ケ条 ちうりあつひこケ条のこと

一 四十一ケ条 下りくふ薬りの事

一 四十二ケ条 同 ひ薬りの事

一 四十二ケ条 同 ちう薬りの事

一 四十三ケ条 同 かい薬りの事

一 四十四ケ条 ちんぬふのこと

一 四十五ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 四十六ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 四十七ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 四十八ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 四十九ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 五十ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 五十一ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 五十二ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 五十三ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 五十四ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 五十五ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 五十六ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 五十七ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 五十八ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 五十九ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 六十ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 六十一ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 六十二ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 六十三ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 六十四ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 六十五ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 六十六ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 六十七ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 六十八ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 六十九ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 七十ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 七十一ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 七十二ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 七十三ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 七十四ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 七十五ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 七十六ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 七十七ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 七十八ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 七十九ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 八十ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 八十一ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 八十二ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 八十三ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 八十四ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 八十五ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 八十六ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 八十七ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 八十八ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 八十九ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 九十ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 九十一ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 九十二ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 九十三ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 九十四ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 九十五ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 九十六ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 九十七ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 九十八ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 九十九ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百一ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百二ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百三ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百四ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百五ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百六ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百七ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百八ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百九ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百十ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百十一ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百十二ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百十三ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百十四ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百十五ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百十六ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百十七ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百十八ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百十九ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百二十ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百二十一ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百二十二ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百二十三ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百二十四ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百二十五ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百二十六ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百二十七ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百二十八ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百二十九ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百三十ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百三十一ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百三十二ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百三十三ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百三十四ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百三十五ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百三十六ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百三十七ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百三十八ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百三十九ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百四十ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百四十一ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百四十二ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百四十三ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百四十四ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百四十五ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百四十六ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百四十七ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百四十八ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百四十九ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百五十ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百五十一ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百五十二ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 百五十三ケ条 ちうこ薬りこケ条の事

一 差合繰合の事 五十二丁
一 執筆の付合の事 五十四丁
一 自他になりの事 五十五丁
一 自他を嫌ふの事 五十六丁
句作の品六ヶ条
一 発句文字の事 五十五丁
一 冠に作意付る名ある事 五十七丁
一 本正の句の事 五十七丁
一 俳諧に用るの事 五十八丁
一 文字たりの事 五十八丁
一 十躰の事 五十九丁
一 名義の事 五十九丁
一 多武峯開帳法事の事 六十二丁
一 辯舌利口相似の事 六十二丁
一 俳諧に去るべき大様十二ヶ条 六十四丁
一 本意の事 六十六丁

以上

誹諧枝葉集上

一 六義の事

一 風(フウ)雅(ガ)頌(シヤウ)ハ三經にして句の體也 賦(フ)比(ヒ)興(ケウ)ハ三緯(イ)にして句のさま也 風 雅 頌をふくむ篇乃名とせり 風ハ周南(シウナン)召南(セウナン)と云より行はれしを 聖賢の歌を集て万葉集に入ともいふの風なれ 防人(サキモリ)乃歌ハ是も凡て風なれハ民間(ミンカン)のうたにいて さる云 雅頌にあらさるにて變(ヘン)風(フウ)乃ならぬなし 雅ハ大雅(ガ)小雅にて朝廷(テウテイ)の宴(エン)饗(キヤウ)ハ二川の通 正雅 變(ヘン)雅(ガ)ハ公あり 郊廟 燕饗乃 樂(ガク)乃

うゝ今年の行末これ西郷の賞人をもとめ給ひ
いとゝ世をうゝまつてたゝくまを奏聞なる事
ハ左今に入るゝ大恵日乃歌
なるゝ西郷の命ぜらるゝ事ハ感ハ
乃奏聞なるに付ても不可変雅なる
一しほ感ずるなり行ふくいとゞ富嶽
養生の家乃分なるゝ事ハ
もゝ分ひらゝ乃ゝ社樂歌乃頌
賦乃行ゝ敷陣其事而直詞之譜せし
て風流もゝ乃ゝ

のまゝにいひの色ゝ乃ゝ彼物比此物之譜
也花もみちふつけてわゝ速情をはもなりとは速情
のゝ紫色して全くむゝ繁の上所ゝ乃與ゝ花相起
奥之譜也ゝて序歌なるゝふゝの皆與乃さ海乃
花たゝ白をゝて六ひのさ海をゝふゝ乃
一ひゝゝ風色ゝ乃ゝ頌をゝふゝさ花して
むゝふゝ乃ゝ明て云なり
ゝ花ものゝさをゝわゝれ梅の花　素行
沖貴や出ゝゝ弟ふ瓶乃ゝ　春雲
二ひゝゝ賦色ゝ乃ゝ地をゝ花ゝ乃ゝ

わらふらり

山乃家や一児さらふ酒乃酒　奥室

新帯や門とる角乃梅乃花　青流

ら雪ら清よ布面所の杉の宮　泊徳

三月ふいとく沈色かとこ[illegible]ら地をらりてこうも

[illegible]ら[illegible]ら[illegible]ふ[illegible]せつ[illegible]

つる[illegible]ふ　貞徳

かとるやてをおりり乃梅もる　其角

三月ふいて奥色とこ[illegible]ら地をらりて

[illegible]ら[illegible]ら頭の[illegible]をわ[illegible]

牡丹候[illegible]ふ[illegible]

白雲乃新をつくひや梅花　嵐雪

[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]の宮　仙鶴

[illegible]ふ[illegible]ら[illegible]色[illegible]ものやつるこ

[illegible]ふ[illegible]乃[illegible]

山清[illegible]の床めつ[illegible]ふ[illegible]を梅　宗因

まふ[illegible]ら[illegible]ふ[illegible]　雲竹

隈笹乃隈[illegible]色[illegible]ふ[illegible]　望月

六月ふ云頭色[illegible]ら[illegible]ら[illegible]ら[illegible]ら[illegible]ら[illegible]

いとひく神[illegible]ら[illegible]ら

徳あまた花と云の梅のさくらに　貞徳

むさし野も先やさくや花乃春　廣令

發句切字乃事

●

蒿里ざくらは花のまだしかに　徳元

雁も百里もとりて歳暮の秋　一雲

蝶ひらし法さきを飛いくれに　湖春

新月乃鴻後更しら徒この都　机子

よか　年くれぬ貝のよわく海ふらふか　仙芝

くとか　行く春か神常(たこ)乃いかびうり　知足

鶏念の服蕎もなきか錦もなし文　南米

けり　こ海のなり浦乃苫屋の秋の夕暮　一鐵

なりけり　木曽川の淵もありけり海のおと　言水

擬(ウ)ぞりけり孫所(だいどこ)さ家のかなつらさ　桃雨

らむ　空なくも東向らん月乃影　玄来

む　都こそん小楠よ讃(よもぎ)花うつろ見ん　高政

桃乃なお秋流そきん柿(カキ)蔦(ツタ)　周也

松よ出て麻とならん紙きよめ　京示

めり　大かたも水乃つくたるかなめり　和之

たり　青さくも乃一里ハ算なり胡硯　已八

名つけれなよう紀伊ーしてるのさり　嶺亭

流れ
春の
夏
秋
冬
恋
雜

春うぐひす　ひとこえの
世をうぐひすの　谷の乳山
なかなかつゆ　ふるなる　海
羅し　柳　ようけい　たいせい
花　ぶく　いろ人　わしし　せゆう
落　ふる　雲　雲　書　雲の糸
花　ありてな　乃　そ　ゆ　ふ
我　破て　巻　ぶて　い　す　桃　乃
そ　海　る　ぶく　よ　ゆ　ま　い　か
乃　女　見　う　そ　し　許　ま　そ

山川
春流
野水
夏戦
竹蔭
流々
常盤
松陰
玉藻
紅葉

ふ
う

滝　乃　雲　夜　乃　雷
白雲　花　乃　滝
嵐雪　ぬ　く　人　乃　ふ　う
和推　ま　う　雁　乃　雛　し　づ　う　袁　ま　う
雲水　見　う　秋　流　人　乃　こ　十　物　ふ　の　川
和及　ま　ぶ　か　し　う　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
秋色　宗　瀧　の　乃　こ　ぬ　い　ん　か　ま　つ　う
如泉　う　中　乃　う　葛　乃　ぬ　ま　ま　う　蒲　ま
一水　う　ま　う　ま　ま　う　ま　ま　う　ま　ま　ま
蓋丸　や　い　ま　乃　む　ぬ　の　ま　ま

つハ　いろそくハ鶯乃聲に所　河舟　喬谷

こう　さいはひと縁ておよぶ乃岩の屋　芭蕉

御り　源氏乃名てしも雛しるしさ二盃　言水

いふ　こさらぬ出でし人いかなる雛見たし　嵐貞

いふ　うきおそく情麹を出る年乃暮　竹範

いま　義理よ母角もう宣書いのり　貞佐

いこ　雪柳いづま活子乃倚し花　亀林

いて　石乃出岩蘇鶴をいつこ知槌　格枝

いて　行く花の秋といつる夜来立　昌維

いと　わりや並乃枕もいてと年渋　道雨

う　二階しかし出るむかの夢　右漣

何　今朝は何を若うり返しなれ人　穀石

毛　風乃日ハ何よかすりいもちなん　杉風

いく　菊ハおもて旗の高角に見なひ　千通

寒れ　子をもては、六月の七夕年乃暮　其角

出そ　寒駅て雑煮紛れるむめ濃口　九皐

若ろ　声をゑるたう粥ミハ餅咲　法三

うそ　雅の春りて花わしてかふ初桜　常牧

うそ　こさり切てこその山をも山さらう　海雲

いつ　言ハ川武志六い七歳門乃宿　祐徳

さう　人九月の終り　神を恨る　千山
いさ　人をいさ　紅葉を折て　時雨の初　山々
いぎ　いさ　ちらハ　ちるも　ちるも　芭蕉
川　川に　流れに　一ぱいに　蓼
よ　白金の鎖　水の泡　山店
ぬ　蓮葉に　思ひ　ひらめ　さ　又魚
ん　岩山へ　登る　年　昆
古　昆　に　を　二　昆
ち　ち　ち　ち　ち　三峯
ち　ち　ち　ち　ち　沾菜

や　橋屋の　を　河　中　月　の　ち　ち　ち　ち　ち　又葉
橋　ち　や　水　楽　二　月　ち　ち　ち　ち　ち　立水
石　縁　や　の　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　琴風
亀　部　や　穴　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　青我
蛙　と　橋　や　月　の　い　て　し　酒　酒　百里
柳　の　青　や　海　し　野　る　の　水　の　沾洲
月　ち　海　の　や　う　ち　ち　ち　波　の　年　朝皮
と　釣　つ　ま　し　ち　ち　ち　ち　ち　ち　沾德
ふ　ま　し　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　
ふ　い　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　
よ　傘に　長刀　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　清通

書乃集元用よかさし音乃約　隨笛
河用て此ようけ一定新　菊陽
寝てこのらくまふさふ新部　其角
ちくさ浦とさくらひくさ元尾　乃松
浦まてのけ書紀うりかうかう　加泉
うまよ海てもうまに仁王門　西河
て　せ　とひあは廉にいきいりの　我三
め　俳及書こまあり　嬬乃嘉　沾徳
れあけてつしかてくいひろくく切字に用ひ
う書あり但当俳ちいひうけまこうれ〇ハ

ゆうかくのまゆの仮用字
二字切　用もこまとくの新
流まー川新のまてくん二川切
三字切　うしくんなの書し明く梅の花　風虎　凡山
と俳　かるの書つきふも踏と紀乃吾　白雪
と掛めるむ正ゆ二けつめ　玉雪
三字切字ありておうかるし第　冠里
小所てう年ま八日乃拾う邦　冠星
ひうよいくく浦とたくくくの文字ようよいくく切
字ゆてて我と三浦うう

[illegible]　　平金
初春[illegible]　　東山
[illegible]　　京之
三[illegible]　　鹿洞
[illegible]

[illegible]
[illegible]　　出雲
[illegible]
[illegible]

[illegible]　　夏室
[illegible]　　弟夏
[illegible]　　序今

[illegible]　　活徳
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

傳ふるハし是ハ是を初心乃人ふ志らし
めんためにあらはし侍るよし紀乃二字を急
ぎ歌よりも早く傳ふるハ見て侍りしいへ古
風の雅をおもひしる句ハ見て是を尊ひまるに
よりて下字定く

作式乃事

西翁句　紙衣大坂惣無常の懐旧故人の名忌日
宗匠を悼て独吟句紙衣大坂惣無常吊ふ事あり紙衣
しきりし　貞三物て八作を定めし
数句一座の巻頭ふ立てし宗匠ま人俳家急人ふたりがい
あへりけす独吟ふる句ら月次ふ至てハ宗匠のこし
らひに任せてつゞくる事を閑し其気色をそこなひし
切字のたてさす一文句の称のひらくと申ならず詞
やさしく心おもしろく風雅をこめてむつかしき邪道に
一字もおろそかなる詞を入るべからず禁しむ趣文字を

可成也
凡教習者條ハ只人が学びて手習好くとも能
まなびぬ人は紙数を書にむかひ口に覚へて手習ふに
やすきうちも筆の運びを覚えるにいたらさるは多く
ちの方へ筆を持て書きく流にして紙の頭に向ふ
胸にしるすも字画のうつりをしらず添削を得て習
習ひ、書一字を書も附情にならひ習ひし、墨は水
能覚ゆるく筆のすゝみなくして[illegible]と功をのさま
うれしく和筆を向てよく習ひ、此字筆のうつりを見立
し紙八分三にして筆のうつりを見覚えて稽古すべし
是を用ゆべし

筆三まけあらく紙は日に増さるまでしるしは日に見えて
やしく紙八分三の本に置ては其手に書けば太うきて筆の発
抱へ又一字字画を覚へて又らんとも紙の上に紙よく
紙ひてやれし筆三の口で筆のうつりを〇字の二つ出来れ
附ひしがしく筆の上に筆のうつり式八文字に手筆ら
筆を此墨にして書きを字の筆の処に附すゝ字紙
よりの紙筆の捻武に紙の文字にも書くとも紙臨
に文字の書けしてさうして書くほくと筆の方に〇字のうへ
おさかくら筆のよき書手の紙を紙に書ても紙にて字をも
かても筆を抱くは書に書紙の筆にても文字とにて字
作りし筆三を文字多くとむ人組の字を書に任

去に於ても事なくして人にゆづりて常の句も
かいせぬもの也 作の詞成かたし
花も句めかりとそこそりすりの心をくる也と句りふて
出しつ春ゆるゝ句又かゝゆしもとに向し
よみ句 前三て句けりとしつね字あつかひしきかり
折三て花りふかて とハこの前三て句ふあつまかし
初の句よ風字ていとも去も懐紙の面と定る也
又て句りつね字ハ句乃一折句かて面と定て代句ふ
て作つ作ハ七句めふて作り折りきとれて是ハ
定りゝう後ふハわつに句の為のためこそいかぬ句也を
見做と書くハくるりて句の作法ふけふ越格くて

月に俗て用之し
六句めふ秀句也面の中にも迎えれて此格ふして定也し
七句 夜半まても月も作ハ是ふハ月の定座と也 功をにゆ
作句也前三句ハ七の句法賞翫とし其中作は月
の句又一折の後よ挑字が句にわれし其名句法花乃
句と定てうるり
八句 七句めふ花かきて此面を月の座句事も有
然なれと此面の中 同字ハ障りふそといふ事もてふをとく
の句ハ二句去てあくし 是世話ハ不隠世の出来事ハいらく
裏
連歌ハ さりて九句めより 神祇釈教恋無常
等何ちよても あるなり 十句めに

さりとて拙劣にて一座の興を心かけ給ふ役
のる也さりとてもよろしく句をきらひし表の事なしとて
いへる表の中にてもよしとき（是をいふ一ちう一句おもてなしかしらを云）
いふ付句になすへきなり

裏一折　初の一折はしくかろくとうけつゝ句をつけける
みを役とすれは挙句は付くるへし何とも元気は句に
成て付おもき句は一座の興もなくしろ揃して只おさくと
付ならぬもの又挙句は案して遣ふ也つり気のある
おもきをさらりと前におもの趣に付さらるゝにて其句を
とるべく折合のさはりもの纏を見おくし長句よりは一
巻の首尾をさしはさみ巻物の心を案し連附は何とく

おもしろくとも遠からぬようにさらりと付るは句を附
心得あるへし前句をよく作る或は亭主の役にかしこく
又初の一折は挑発の句を好くは挙句挑発の役也
続句に初の文字をさらりと付る也

百韻は月花定座の事

面八句　七句目月の定座
二面十四句　十三句め月花定座
三面十四句　二の面と同し
名残面十四句（十三句め）三の面と同し
七十二候の名をとりて表裏句数を定しける故に百韻の
七十二口の事
体十二の裏表の面とのをくらいとあつめる

裏十四句　十三句目は月かりか秋の定座
二裏十四句　七十三句め花の定座　細川のさらりと同し
三裏十四句　二の裏と同し
名残裏八句　月花　七句めは花の定座

四十四文八分
四十四くハ百銭の代と云なり
中ノ二朱とぬきこうりをにほうして平銭ハ
銭屋の或の事
西六分 五分目月の定式
金銀四十百 十分の月の定式
裏十二百 八分の月の銭の定式
同裏六分 分の月の定式

源氏の事
源氏といふものハ六十分をもつて
中に十二分のゝ一朱をくわへてつくるなり
或ハ銭の事
一賊ハ銭のくまうにて色白
を十分にして内に裏と云物に数十分の間にて
正の銭を名字の分をもつて
しかし京ハ銭を使ふ 他の事を
銭をといふ物ハ月に毎夏洞行銭
ホナ分を使ハ銭の事ハ
京ハ実銭ハ銭を使ハ
に面よ裏に銭と
にをし 表の色成
夏ハ式のゝ
一百銭の間夏の字を
をを夏ハよりの分

のかうにて白也すこて寄りにてうくを脇とし○爰
あ白をいうくひの初句をかくすこて寄りの句つれ猶
のてうをかくし
名白分白紅乃まき
一名白を面欲すをうり表八白のくとにてらくと
脇をを序にをてハたくく初句をくくく紅出せ
はして初句紅にをくはお合うを白影をを
三爰二枝と
名こうを氏問寄月をんを白をあの意相をを
漢和和漢の書
漢の数白ををを白をいうを漢をを字文
とをけ爰ををつきまう二を不問を同見下三を

をを白に爰一枝と屋ふ初句の脇ふ問し紅下のを文字
のを脇り額字をくし唱白の脇ふ紅見ひくを字
字の韻を不問
梅濤 欧 逢月 策彦
影湯ををを紅乃う欧 紹巴
たの唱白のうを梅欧を白の字平紅をを紅て欧
昭 文欧 名鐘の三白を深てを猶の韻を問を
かり色ハ表句りを白ひくを
文月可ニ申入 半笠
寄をををををを平をを紅て文欧 真
は唱白のうを申述字を紅を文欧 立圃
護乃二白を深てを候は韻を紅乃に刺ひくを

てならべよきをひろふ字をいふ一首の内四句と二ケ所也
和漢にも和読にも韻をふまず是又和読なれば句の内にあるは
ひろふ字にて除て外の韻を定るなり　和漢の附様を
脈といへり韻といへり
定に八字は出さず也
露恩御砌菩
是等の字あれば皆とめ
あるとも平仄の吟を見て好梅指
玄鳥潜騰飛
かくのごとく各句にあるこそ平字を除きて韻乃
皆ヶ字を定る也漢和の仮名に同し
孤對に至りて平起仄起といふことを謂べし

作者口
訳菴

三より二字目平字なるを平起とし
上ふ字をは仄とし知るべし
是仄起なり

◐○○●●
◑●●○○
●●●○●

章句（ジヤウク）
まづ平起なる附る　對句　付句の
し　但平起は発句より仄起の格者三並に迦て脈
より定て平起も二句つゞけて二句もまた仄起も二句つゞけて
こまかく二句さうなり
四反一平（仄平一反）とはふ平字の内に反仄字平
一字をもりなり是を嫌へり（唱へあひあらゆるかくのごとく一字ときらふなり）反仄平
右仄反一字の嫌なり又下三連とて嫌ひ有るは
平（ヒヤウ）にもし仄おて下に三つならびたるをきらふなり

○○●●●
是下三連のりめいしてもこれ
ゆゑなしとせ
挾註といふ格をもんの段つきるにあらんに二に不問
字紀と正格とらふ反部挾註を愛格とも云
●○●○●
是挾註の最のり字紀字に字めの反のりくきとま
にてととをあふくくくくくし反紀の河を同一名なく
注の正格不字のしとしくくくを唱白七云にしろまとを
主附ろ二に不問二六對也想して詩の注に同一
●○●●○●●○●
七云かくのくくを字紀のり反
紀同お是に反まりのく

面八白の門注白和注白ら面の門對二面ろ是し名紀の
裏ふ八對白紀不若注和の附面八白め和のり雲溪
の附八白め注しあり白同系
面八白の同注門の白ふ八紀唱白に不反極毒川
とハ康坂山ミヤマ龍門雲キヨ谷ホの八名谷ホの居乃名同元乾徒ホの字号白雲辭陽同曲ホの篇
乃名史記文ヨメイ選ホの書名參軍司馬ホの宮陽クボニミヤウ
百白の門注ホ十白紀十白紀十白紀田青をにな乃門注に
二白和ホ二白ろろ月秋和注注ホ白つき
ろと不極高ホの一度文白ろの注に成ろ和紀
ホ白ろに三白ろホ 紀一方に文白ろろ丁ろ丁ろ

むとうんぬ外 夫ゝ[illegible]おもの[illegible]のことのハ[illegible]
ゝも一字ハ二句の和ハ双方一句ハ[illegible]ゝ句ハ[illegible]
云の和ハいハ海と韵字ハハ[illegible]
ハ句ハ[illegible]清和ゝ[illegible]
にゝて不若ゝいゝゝゝ[illegible]
[illegible]ゝゝゝ[illegible]
一句ハ[illegible]
和句ハ[illegible]
ゝゝ和ハ[illegible]
不若 但面と[illegible]
對句にゝ[illegible]

對 黒白ト 青丹ト 数 對 三千ト 一万ト 詩 對

仲萬 物モノ 對 鳥鬻ト 馬歸ト 同 對 山野ト 江海ト 異類 對 春夏ト 東西ト 對 義 對
あゝゝ 但合掌カフシヤウ 對ゝいゝ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
態 虛押ト 對小ゝ[illegible]
通韵ゝいゝ[illegible]ハ[illegible]韵の字ハの韵ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]字[illegible]ハ[illegible]
支 暗之ト 微ト 魚ト 虞ト 佳皆ト 灰ト 文欣ト 元魂ト 寒ト 桓ト 刪ト 山ト 先ト 蕭ト 肴ト 豪ト 麻ト 庚ト 青ト 蒸ト 可ト 陽ト 東ト 冬ト
嚴 侵 真 蓋 庚 [illegible]法九成 遊仙窟ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]日なの[illegible]
[illegible]ハ[illegible]山と夜漫

惡と下来かく平羅は太綾ヶ遠藤楊玉落ちかくはなれ
偃安寛ヶ洞とのせて銀と 松蘿利 なと 分亘 至誠
蘿弥 頭と 豊之羅 ほと提かくきて見ひまりなとく
勝句にと

與レ仁 忘ニ 巻ヲ 随

會テ 容ニ 酌ニ 沙 嬉ニ

うりにつらひまりぬ誹諧ほのおくき一座ふ一示そ
きしもやゝおくそのし

連綿ノ字ハ（粗カ篇ヲ作リカ相似タルヲ云フ）（アウ二ツヨセテ連ヌルラ）（玉星霜雨露ノ如キ）（無ん十トノカヘリ点ヲ付ケ字ノ似イリヲ云）
連綿にて對し二ツ剛ハ剛ノ
二ツ抱にく對し庵亞り、納ノ京
庵亞りゐて對し篤しき

篤しゐて對をへし但無藝のけに聽くし
て虚押に似たる字あり又虚押小強くして無之藝
に似たるあり能く見わけて對をなし
諸も本格漢和和漢の漢気素なるといへども引
詩の句数をくみて和語の字さしやさしうんん
さうんとそらへり和く古よ漢和和漢の句格古語
は一方てをみいて重家の統紀をあらわく

誹諧之 漢和

梅咲 遂ニ 春 上ヲ

處に見ゆる花千鐘 萬松
秋の月乃中連ろまう 杜氏噂て

頓作是追従邦富下巾春　地堅弛手こう

いつくしい庖厨をかかる

柳ちらちら入り雪の

ウ　迫付の雑炊寒さ来て

炭の温ふ屠蘇

臭香　誣薫器認帖黙燈釭　鴨吽隠岳恍

賤　紀　渡世惊黄　茶休　就路

ちらちら雪降てけいこの

雑炊を煮ていしらふ嫁婿

お撰のとき毬とろろ

轉樽　尉月底　鼓　路底　晨鐘

月盧　茶水清　梧桐無手落　松樹雖枝凝

雪解のまるこ汁かけて

臭れ　ちらちらいの焼もの

門ごとに陣どこ

座興　碁成　牧遣　織々燈

放翁　藤色好　夕顔白々凝

ちらちら泡てこんぶも素寒

冷酒もちてこれ

閑和流

雖ちらも弱の流りやすく

あるひと云俳諧といふ名の義
俳諧ハ宗祇の時分より承る
ふるくハ連歌の内に有しが
是ハ連歌より分て
先蔵空房筆　音停喉内筆　鎌倉山去府
三字を韻ふかく連歌の法にて
俳諧に出るものなりけれ
老人構俳諧
是ハ此二筆より出しものにて句ぐくるより句数ハ和
歌をふ武ハ一句にくし二句三句四句迄もまれ也しも内風の
しきにまかせ和歌の句数によりてそれをもつ
ていへるを又いまハなくべし

職その記する事
自然に流れハ職相似てさとしこ合せもアをうまくのにして
毎にこの色出や、文に連歌の格例をあけて初心のたをきしむ
職何家連歌
手あふみまくもをハ楼小
職何家俳諧
わが家をうしわがもがせ貴
是ハ上職と云おし溝俳諧とこそ字ハあそうく社領かく
あふさく白津山字の中そをふるく初の句をむ家後の句を
まをさと記しるもり
附何まふ
代々にも本されてしめる物託

像行洲俗

天の川しらかわのんあらしを

以二白川代稱歌しるうく家に見ぬ山に

一字寢歌

ながらへて白寢ぬ浮世の窓

見ぬ白髮の寢をとらうめり

二字通言

結てふうら恋しうきに

こゝろ白髮のこゝをとして枕とはるもとなり

三字本器

去りぬ白髮のあるを金の里

見ぬ白髮のこゝをの中を器して洲とれうも

同上器

陳うやうらかひこゝろ

見ぬ白髮のこゝ代器して九とうらく

同下略

月ひかり新ハ同數の俗

見ぬひかりのつ文字を略して人れうく山

四字上下器

たくつらめといつを本

三字器

知るうくし又

一字俗言

白髮ハ白髮ハのけ

こゝを白髮けをもとはうり

二字添篇

[illegible]門[illegible]て[illegible]人のなり[illegible]

[illegible]い語といふ字の通篇を

他流

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一衣裳法々さ不審不相通
一言語或雜談
一貴人或児と同書たとえ
一化白雖況化白通月白
一自分白結ル円座を
一手紙白数好書月白仕ル
大概たんたん
一雑白標白
一藍屋の人さやく
一自分白ぬれ白ぬれ同様
一化白あに白合熟白云
一月白寄り相合白
一臨眠ひくひ号
飛脚のたれ人事
一夫素白にて人家通路
つくひと同一にして
のうさ方きんか白ぬ白あり

て扇をぬきたのうこに行のうく出て祝を乳母ぬ白
とわを小をか入て豆を豆とる 中古三五七度と物
二髮とうて結を見合文書
きて中二枚を又二ちよりて
うまいぬ下て通文書れ
てきたん安方をうたの
わくをとり白よの
に居へき形ちいいをわて
書色きに紙白あれを 紙帛
通て宗通の方を何小仕紙
ても吟しのろく事をいふ

上之

と書たるものなりと聞て懐紙に
書付て遣しける歌の人々の短冊
まして短冊をかきて成ぬる人々
は一面も又は或夜も色紙張
屏風に押宣にうつす事を主殿
持のうち短冊を屏風のかたらを
張まてのものやうを色紙にかく
て張こと人々又は家道の色を守
書くく短冊をかくこと
又家の上に書く一所か
書所家の歌を書懐紙かう
書くいとて一所にかきて
懐紙に持て遣さるべ懐紙に
らして短冊を歌をかくこと
し懐紙と書歌をかくやうにて又
常のかくかう行にて出し歌を
短冊は御屏風名代のかたし
短冊御屏風を
一家人々の歌を受て名家の書
とれ歌は御今七日の物のうらに
書人四かたれ名をし書てこと
かくもとれとおとしくかく
ハ一大事乃ものこと摩乃奥之
此方かて家こかくとの歌をこと
に短冊とも

宮とゝく考へ吉川氏の首ゝ[illegible]
しゝ[illegible]か墓ゝ[illegible]
[illegible]
わるゝ[illegible]
ゝ[illegible]
[illegible]
一ゝく[illegible]
どいしも[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

たれかくこのこころをこそ
なほ河内やとこそとくとくとはれ
みな歌枕も古歌やうるはしく
はしりもとをとこそうるはしく
廉なりて山賤やうるはしく
歌とゝとゝとゝとこそ作りなほ
いのちにこの歌やうるはしく
めしたりたりいとゝとゝとこそ
ありけり年もすぎ歌うんみくゝ
あるひのまとゝつゝみかくゝん
いとくとゝるとゝとゝとゝ
みなくもらくゝかくゝ
歌なるもかくゝ
こゝもとゝかやうなれ
てゝかくゝ
自他中道なる
歌なるかくゝ
歌なるかくゝ
歌なるかくゝ

奥山の猟師も月にうちひしん
仙境やいつとは河の京とすん

以二句中ノ流ノ句ヨリ
見いだせしものなるべし

まつかくと点ずてしやうぶ
以二百ヲ点ノ流ノ句ヨリ
山深うつ雲陸に起やまぶんん
鹿もまつ鹿も八ヲ点ノ流ノ句ヨリ
この句沢ノ流ノ句
蓬ヶ嶋ノ流ノ句

句やうのかたちのいりくんん
この二句ハ本ノ流ノ句ヨリ
たいらの流ノ句ヨリ
よくくしてあれどもしてい行者のおもしろ
文字ノ流ノ句
歌ん四ん 服ん四ん 仏ん ん ん ん

雪ん ん ん 歌む
世の和尚ノ流ノ句
新ん ん ん ん せん
たん選の流ノ句 歌まの ん
以上一字ノ流ノ句 ん ん 歌四位

八字のくくりをもつかまつり候と
と一字とゝのゝ字をもかねたる
掛詞の例なり　海もとてうん
こゝろんとてようとゝとゝ
命　恋ゝ三ゝ恋ゝ
ちはようとゝとゝ
ん三句のゝゝとゝ
神ゝとゝ又ゝん
一　この河か　ゝ
まゝよゝゝ
海よたゝ

び二句ゝんゝゝ
うゝゝゝ
芋畑に
以二句より一字ゝゝ
ん三句ゝゝ
みゝゝゝ
掛句ゝゝ
一河とゝゝ
よゝゝ
人情
ん三句のゝゝ

何てあるとふしんとあるこのかたてのかたい海と
入るなるしるしのつゝひとていうくゝ字ほとてもとるかたち
いうくゝの事和の岩をあくゝ事のるくゝこのとあ
一町くゝ字ほくゝ指ゝしてゝとあるまま
新宮大社　後鳥の法よくゝ
新宮、海とふてくゝ高くゝ字てくゝ新宮ちんくゝ新宮ちんくゝ
仮用義　ゝくゝしくゝん
新宮みのあれは昭きあれて宮りたねくゝ指ゝ新宮しくゝ
金清ゝて熊いゝん女でありくゝん
金清ゝて熊いゝ宮てゝ熊女ゝてゝ熊ゝとゝ新宮しくゝ
たの白ゝくゝ指ゝてゝ新宮ゝ和ゝ新宮ゝふゝ指ゝ

一ゝ　ゝ　ゝ　海ゝの
ひ海りゝ町くゝ字ほゝてゝと海りあり
一ゝ白ゝ海りとくゝ字ほ事
ふゝひ　くゝ　ゝ　ゝ　ゝ
新宮ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
久日ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
女ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ海ゝ海ひゝゝ
たゝゝゝ文字ふてとひ
しゝとゝてゝひゝ
ゝ町ひゝ
一ゝ海ゝて海りゝ海りあり海りつゝ海り　かゝ海ゝ海ゝて海りゝ海ゝ

やいくいたいいたいいたいかくかて
うふうひのうたたたのよみう
ぬさのうとうひ詠のかに　歌をのよ
見てれの字をとに至くに清宮に寄りかとしとの字をとて
とてのかいるうかもうくとのとうくの字にくうひの
そをとをうぬくうをの四拍いものの字にくとを四文かの字
いうのいひつうれくとのをくの字ありくてを清宮に寄う
くうくをとて三をくいたくを切しうのとうくの字ありくてを
石若
文をかく漢をかをくを清宮に
かくくくとうくう
赤駒をいたくいかて

いたくとをくう
いたわいんとの清宮はかうう
いつくとをくう
いくかふかうくいたくう
いくくをくう
源氏の南をいつくを
いたくとうをくう
一秋をいつくとをぬ世に仏く
いたくとをくう
成佛を清宮はかうう
かくをいたくかうう又をくをくう

文衣服も中神の指つかさて
作紙をかてとさてうり
書(フコツ)ハ錄作さと合点て
ととさてうり
親の仰ろ〳〵切うり申と
うをとさてうり
とゝ〳〵あつにをかと自慢て
あうとさてうり
形をし陳ぶも表と恨ぶか
程をのしとさてうり
作ろこと意しに作ハ作ぶく

こうとさてのしに作ぶく
たれ〳〵れあつひして
一銀の利とたをて
書ろ中やいの四銀の紙て
以文字五銀の作やふく
てて〳〵為ろハ長日にて
作〳〵ろと陸(ラ)沿のとんふ
作氏四銀〳〵作ぶと
作ぶ尾〳〵作ぶ〳〵ろあう
記(イ)作に為日と
長と銀のふとく

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]

一捨やの事

ほうこの美女と野干と云ひしや

[illegible]、さらきしらりく[illegible]

[illegible]

きき[illegible]

[illegible]

一名木の[illegible]

捨屋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一鼠のやの事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一中のやの事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

菓子とて春はさくらの花ゆへ人うらうらたゝんとくらゐ色さそう風こゝの中にゆとゝまるとおもせとゝ為ゆへ人ハとりすゝ山や清元ゆゑとゝ宮ゆくしてくらかす

一こゝろのゆゑ

ときとくや宮女の役とばかりてくるにゝゝろ可しとゝ

月ゆてゝゝろとゝもくやゝゝ

ゝゝろこゝろりくやにゝゝ

ゆゝいくもくやにゝゝ

一ゝゝみのゆゑ

ゆゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝいくくゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]て月をながめくらしあかす
[illegible]をあはれとおもひて秋よりのちて月をながめくらし
[illegible]てんしとうしりうりの
[illegible]の[illegible]りしやうを[illegible]に[illegible]
一後のやの事

秋[illegible]のんやに出[illegible]
くるしかりしやうを秋をなん
[illegible]のやうに
[illegible]をたのしみ九月九日系のもにとそしかれて
[illegible]てやのうちふさがりてまうしうしろ
[illegible]

行乃為[illegible]の事
[illegible]行せてねへめえ
月をうまて　[illegible]
[illegible]どうもせ　いうう[illegible]
[illegible]
[illegible]
一行をのひ[illegible]
[illegible]
悔くさ
[illegible]
後世[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一うの字の事

うくすはぬふひゆろう　宴うと郭内
秋ゑをうく　川ゑうまて　人をうたのし
物うかまね　物のりゑう
滝うこと　滝うの字ぬろ
めしとの句下の句又ゑ中みくものくてうん
てうの字なにくくと　海うく
ゑうとゑをしお字にくと　ゑうへうゑ○ても前うの文字ふ
ても前うの事

年畑り　廉そに　恨て　ゆとうん
見て一字ゑう○句なり

為よたくあるに今ゑうん
見ゑらんと海りし
月ゑうふ名所の新よ　ゑ
ゑハ文字を海りなり
二句をおふもあらせり　ゑうゑ一字ゑう○文字前り
いとゑく形にてを前り　ゑれとうにゑのゑうゑと
ゑうしゑんゑあにゑうゑ　ゑう
ゑうとゑをとの字にくゑ　ゑう字に前う事
お稗ゑうとゑ　ゑうゑ
ゑてゑの句にゑ　ゑれと悪て
ゑうの句にくゑ　ゑへゑうし
ゑうとゑをとゑゑ　ゑうくゑ前う事

四条の御所の御つぼねに

撰ばれてゆくべきこと

めでたくこの御ぶんにてかくこそ

まうしたれ　くらいの白にはもとより

一うとくなりたる事

ちかにつかへ　ぶんにて

高和かぶんの人をいとき

ものしくこそにわすれ

あるかてゆくをもとるもしく

下の白ふかりの事

ふるい業に無比の業

小性たち　高あいたち

ゆるしの七夕の御りとにふ

のまこにてもいつれも御ぶんにて

ちの行幸にうつりぬ御ぶんにて

一下のうへの御りとの事

諸事　初意高ぶ

ぶんにてかりてかりて

有職は入らん世事

もて世事とてくく

ぶ成て高ぶ　或いと

ぶ月とてまして高

いと高ぶくしぶ

一はなりの事

山おもわん　六月なのさま

新酒うるり　脇ばたとろ

六月なのはしをもよはなのやうにこを酒をの

はをしへ　はなりうるり　指わしうり　海の事分

はいはしこふいりはて　乾物　塩物の人数

つよ酒つんとうるり

一下りなて　なりの事

足しはて月か事をゆうして

月よ　挑灯　うるり事　ひろんを

清て　石垣も　ゆうして

ゆはして　石垣も　ゆうして　新く　待うりめ　はは

ゆうしてはなりの　ゆうしてはなりの　ゆうしてはなりの

かとをふるてのこと世をあるくひ頁
きりとをはにしりをんたのて手をあ
つしかく注をふるてしとくあをを浄るる
をにてのくを傘をまけをよりて
もしくりこを人乃笠(リヤウ)に海りをてのの
ひかくんいをふるしくりをくさま(ミヲ)藝の
人をを用をるし
一ふる留りの事
二人か中い拾世をををる
拾世をををふるを云拾をく

俗ものに命を道附をふる
道附ふるこをめと云のこをたり
たこ百のわつひをくをを立し
一やい留りの事
能(ヒイ)登の山を義人もやい
中を清義人もやいをるをんををあり
也(ヒ)鄙の鄙(ヒツ)者をををををくこをやい
能いををるくこをやいをるををくこを
たこをのの能をふをと海りいををし
ふるの能をれて考やいう

一かい菊りのまき

滋賀い豆腐の事

豆腐のはらの書よハ細さうり

細さうにしてうまく洗いさものを

さいさうしのうに細い切るものうめ

ぬ豆腐しいつまもとうあしらるなくやハとゆりよ

ぬらるやうにてとうくうらる意

一うも菊りのまき

京作乃豆腐いつくようるも

さいつくようるとうめうりもにすく

一おりんぬふのぬのまき

一ハ破うも

さいうくうを破うとうめうりもにすく

たに二白にうくうまりくうかうく

一おりんぬふのぬのまき

松ちまを新ちんりぬ荒風雲

さおりんぬくかうんりぬ新ちんりぬ

新塩ち塩をもうけぬハを薄

さふのぬり塩をもうけさんちんり

たに二白にしか新わりもを不乃ぬハ切ちにうを

一こまち文博文の事

[illegible]又[illegible]事を當の月
[illegible]ハかゝれ又さたもまりめろぐ又[illegible]てといろ
又[illegible]の花のやくくろく
[illegible]ハ[illegible]と年の花を[illegible]ろ又[illegible]
[illegible]りて[illegible]めくし[illegible]
[illegible]ハ[illegible]の事を[illegible]て[illegible]の事を
[illegible]ハ[illegible]の事
水のハ[illegible]三ヶ条
一三月水の事
[illegible]水
水の水
[illegible]

さるふても[illegible]の[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]人[illegible]て[illegible]
[illegible]水[illegible]
[illegible]月[illegible]二月[illegible]二月[illegible]
[illegible]
[illegible]て後[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]
[illegible]

おかのうへにおつるはなのかとハなをとうらんとも
つまハうとしといふ面白のかうら

一歳狂言のまゝ

もゝ花さてはなを牡丹のうへ世界
色ハうつるさかりはさてはなをはつるけまつるう
さうふても深雪の雪ハさらしつゝ
色おもしろかるう雪をいとしかるこゝ
うりてしのこもるかうれをとう
一説生のうさかの事
雪のしらうの海苔さらしつゝ

色沢生のうかるうり雪をとしかるこゝ文字沢
生のうりてかのてにてにわりた
色うさかるうこてねのね文字うさてかをとう
ゆうさ

十二月の海とハ月のことぬか
おかとあにうのひるしこ
ゆうわしはまハるぬ物うらく二支月し
一色云沢生まのしのまま
色云のしとい　足し　ゆ　る し
ゆのしの大豆足さうるてゆくたうう

海ことの〳〵はしら治定あるべき沢を
ゆしとは　をを　をを　をを
をを　をを　をを　をを
をを　をを　をを　をを
いふまでもなくとも　をを　をを　をを
うよりはなほとも　をを　をを　をを
ようの云々　をを　をを　をを
しの治定に　をを　をを　をを
未来のことは　海　わたし　みを　を
をを乃沢なりはいしいやうにも海なり
源氏　海　海の中の　うをを沢未の

ありなりとそ〳〵きこえてさいつかたの
たを沢未のことは海きこえのさいつかた
てかりもあるへきさ　海　海　海　海　海
一河乃祈願乃事
種ハ祈　あるハ願　ハ祈　ゆゝハ願　願ハ祈　うそひ願　流
祈　ちさるハ願　思ハ祈　ふハ願　
をのこにてさたの乃沢なりとも皆山乃沢なり
といへとも種なりなりとしいなとも必ずとも
ても山海にてもうまに新てけるかとふ

いとりあまひとびとをなをなをいとなみて遊ぶこともあるなり
昔はこれとも事にそもつ用意なるもの
おもふといとりをこるもとへて後を知へし
自然の祥ナセケウ系

一 家氣自然のこと
お
鍋かま食物里にて用ふる
自
小ごとまてくく後の美味
おのの家氣をとりあいをせてもあるへき
一 ろあん自然の事
お
海ばたより月をうつしたる自

自
ものとてもみよりあるとうつる紙
以自然に事に自然のうつしたる紙をうつ
ものよりて家氣自然しいとり家氣ふるうる
自然とうつしかりあるもの
一 おもふ自然の事
お
海ばたの用や書ものもん涼
自
ひとりうつしの塵壺の居をとて
以自然の詞をもちひをもちひをうつ
海ばたの事をいくらかまかく
一 おとり自の事

おなじ　歌とてうの詞をわうして法をしる
　　庭掃てあつ雪の白のつゆ哉
　　白いおなじ歌とてうのゝ云らくたらにわゝうりて
　　つゆ哉といひ詞をわうして法をしるふまりて
　　掃てあつ雪しらつゆ哉
一さうふなのまき
おなじ　茅の松ゝたゝ雪の白のゆ
　　掃てそうゝ小様の様所いふ法
　　松人の法世とうゝひ百ひとりひとりにゆ様の流
　　所とわゝの所のまをさうをしなもの法うり

一ひてとうの法なやうの事
おなじ　こゝ様所ゝて雪を
　　こゝのゝの所ゝ雪ゝ花
　　おなじ世をさしゝの雪歌ゝ法雪おもうけの
　　やうにとれゝ法なら
一詞をうの法なやうの事
おなじ　次第にせいの詞ゝうゝ所ゝ
　　結をうのゝうゝ所ゝ磬の寿（ムコ）き（セキ）様
一おなの所のをを法雪のをゝ法をうて寿き法をなら
一古事なのまき

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

付 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

行袖の紀年にうるも阿和乃ゝ
歌はいとゝなれ花の色のゝゝ
うこゝに猩猩の生酒ゆゑ酒
色ハ一の白行袖のうゝ白もあるゝ新ゝいひゝ
ゝれゝこゝろめ義仁のゝ酒をなりゝきゝれゝこゝ白め
ゝ酒義仁ゝの紀ゝうゝ白ゝの意ゝを示ゝわゝとて
行ゝうめ出紀ゝうゝめゝうゝ白を行ゝ白ゝ
車行ゝう義仁ハ白
ゝうゝゝゝ紀ゝ行ゝ
猩猩の中の意ハ義の月

色ハ一の白ゝ振ゝ義ゝ白ゝ
ゝれゝこゝ白ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ酒
くゝゝ歌ゝゝ行ゝゝゝゝゝゝ
猩猩ゝ合ゝゝ新ゝ行ゝ義
行ゝうゝゝゝゝゝゝゝゝ
一段関骨付合の事
御門とゝくゝもゝ歌ゝ左の附
上義ゝゝ富ゝゝゝゝゝゝ
叶白仁ゝゝゝゝゝゝゝゝ
の新ゝいふゝり

おぼしめしの事ども多く侍れど
おぼえ侍らぬ事ども多くはべれば
見聞きんとおもふ河毛ばかりを
ばかりの
おぼえ侍らぬ篇に曰く文人
陽生に門を閉じて招り渡
四人皆ともに門を閉じて招り渡
つくるものなり
一長恨歌の句合の事
おぼえ侍らぬ行成と書くべき事
侍らぬ興歌四園の歌
若も覚ヘニ

見聞きんとおぼしの句の新勇とうとぶ人の歌
に付てんかう行成を云ふを
おぼえ侍らぬ作の歌と詠ずるを云ふ
おぼえ侍らぬ歌へ庚に詠じ賞
見聞きんとおぼしの句の新勇とうとぶ人の歌
たるに付て合ふをもとゝなり
おぼえ侍らぬ歌の下
おぼえ侍らぬ歌の長を合せ
見聞きんとおぼしの句のこゝろ
ふとゝゝふるはゝ

一新蔵の付合の事

お[illegible]

付 看病の間を[illegible]

[illegible]

[illegible]

お高[illegible]

付 八橋の[illegible]

[illegible]

[illegible]

自然の[illegible]の事

お[illegible]

付 表[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三ツクロ
三つくろ高うとゆう物の如
是春さくらいとゆうて白くてたくさん
ぶらさがりとゆう文字あれば白ちらす
つるる物あれば
山あるしいるるすれば
色ちがいるるいるるるるるる
ゆうり七文字あるひくさの四季ふりかたに
ゆくわくしんくしん
如意とゆうおれるるるる
色出ちがいくしたの文字るるるるるの何色ちがの

ゆうり紅葉くしんの
たれかのとゆうくゆうひて白ゆうよんとゆう色迄
て一句をはなしあるいはうるひらかるる法
色の何ゆえ平ぬふのぬつて高ゆうゆうゆう白もたゆ
いくゆうりとおもしゆうのくあるゆ紅くゆう
ちくしうとふぬけるもうゆうゆうゆう
一歌　ふのゆうゆうゆう
年わくゆう書ゆうゆう梅ゆうねとん
ゆう紅ゆくゆうゆうゆうゆう
三ツ三ツこくゆうゆう

おいとの行歳の病も癒かれ
ば白雪あれば白と同じことを云のべ云ふとも実ムミヤウの
あり対して思いたるとこころ
詞にあらず
たの白とあらく雖花にくく工夫をし和歌乃ぬ
しこころたくと知ふして云ふとをとくべ
一自他おなじの事
ふるの用ふ詞とあるもあるん
えい眼をふんとうもとをとらんとこころふ
事おなじるうもものとくくとくくおなじ

なりとも
凡そ和歌ふんとうもとをとを
えいふるもとをとらんとくくおなじ
てとしもおなじるうもの自中は負はるうの
一文字詠りの事
歌詠にも所詠の和歌ふんなり
めばあ文字字あまりいふふるを何をとをとに有
何をとこしるの仮名
一後て若く歌の文字とをとく
めばを文字の字詠りもあこしるをとをあく仮

いつもの七文字のもとも同じ
一下の句かくのごとくなる事
なにしおはば歌の義
仰せられて生駒
以二句歌の意を生駒
はかるべきなり
なにをおもひ我とて
仰の七字なく白さ生駒
同じ句なれども名所
をとゝこゝにいとゝしく
題とてこの

白石は白石にはべりて
と入名或を初とする
にはべりて

歌の事

篇 題 曲 流

序 篇 序 曲 流 題

題 歌に名所なきは不審なり 俗説にも名所
なくいとゝ篇はあるべ
きの和歌の序いかゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十詩の事

一第一出言紙

[illegible]

[illegible]

一第二出言紙

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一第三出言紙

[illegible]

一第四出言紙

[illegible]

二揚りの拍子の姿

[illegible]

一第五出言紙

[illegible]

世紙をんのりてはしもしくしもふさもを
一寸六面白紙
松ばらに書てふうてあるうち
世紙んつりまうけく奥ばらをあるうち
一寸七法紙
蘭中うれを世ばらに紙ムジン
世紙侵あるうちとうたうるうち
一寸八尺紙
蘭義く白落しを面 鄭氏
紙白に朝とうれやうにうちまも

第九百一篇紙
ばらは紙やおもひ紙
以紙ばらとくしてまとのあるうち
一寸十拉異紙
一湯やかく白ろんしをうち
世紙貴とをして紙とうるうち
九十紙の本ようさ面くのうちを
ようあてこ十紙をうりうち
あてまの紙ようさを異しぬ
雜古 刑に紙こ紙のまま

[illegible]山[illegible]と海[illegible]法[illegible]奥義物に[illegible]乃
清響（コヒビキ）[illegible]おとゝ[illegible]
[illegible]にして[illegible]人[illegible]或（ソヲコト）[illegible]
[illegible]と[illegible]清響（コヒビキ）の[illegible]
[illegible]と[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

○ [illegible]

いつくしみ給ふ御心ざしの[illegible]

[illegible]

月よりをさしたる[illegible]

[illegible]

○ 世の中[illegible]

[illegible]

宮腰 仙鶴

宮腰 園女

[illegible]

[illegible]

○ [illegible]

[illegible]

[illegible]

宮腰 千山

宮腰 氷花

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一中の[illegible]と書事

越[illegible]　清[illegible]　関[illegible]　孜[illegible]

河[illegible]　美[illegible]　[illegible]　肥[illegible]

[illegible]

[illegible]

一[illegible]の[illegible]と書事

[illegible]　小[illegible]　小川　[illegible]の　中[illegible]

[illegible]　小[illegible]　小[illegible]　[illegible]の[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]の[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一裏ばの色をしたにかきます

[illegible]

一ばんの色のかき事 わかいもの

一ばんのいをしたに書事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一うすばの色 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[

ひらがな　ひめ　ひ　ひらがな　び　ぴ
ひとも　ひと光　うちんのびゃうぶ
たはとつ光く清字もまぜ
一ぢめの文字ふと書き
葉　らふ　雑俳　なれん　冊数　たゆん　芸能ぢた
かたの部あり
一つぶんなつつくんとも
右の外かまとはるまる俳
ぢはわり字なりうちう
ぢとあれとちはいゆのの奥のひやかとひ
のかにうの縁もうちく考へちいたく
俳ぶんまれ一偶をあるれ
俳句集　い俳ぢて

大言の辯

人にあはいひとゆうにんやうなるよう
ぬ事くちうる事をなるとうるを
ひもちくふ文減ふちんをうるかま
うふくふいひちせたくなかま
一日　俳諧の書をちくやして和のうあ
にちけあんちとのちうひとうれ
事をとまてちとのかんとふとてにを
て分合のうひうあくれめれた
わくんふうれあちこれたちこちかく
こうまはうちのうちうんと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

しまるく切ためたるうんいとちちくゝ
きうゝゝ海くいはゝれたゆゝとしひおくゝれと表
人のんを海わたるゝゝくゝとよはゝしまあんゆう
鮫ハ凡雅をこえくゝたくいゆゝかゝぬゆうにしもし
一白ハ内に物のえるゆくわ白ゝ乱るゝ敵ゝ来
ゆとゝゝくゝしくゝハゝかゆ高ゝたかはにゝゝかゆう
形ゝとひをふ足をゝりゝかをゝのゆりゝを
外ゝハゝいゝいのゝゝとゝゝるゝゝゆりゝおゆゝゝゝゝる
ひゝりゝをゝゆふゝをゝりゝ中ゝゝゝぬ人ゝゝを表に
ゆゝるゝゝゝゝゝゝのゝゝをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゆゝゝれゝゝゝりゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

しゝて中をゝとゝるゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
足白ゝゝれを物ゝハ洲海の外ゝゝたゝゝゝ表白ゝ
乱ゆゝハゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
をひゝくゝゝゝ高乱ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
しゝてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
外ゝ色ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
んハこのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
海ゝゝゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
てゝをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あるとしもなんとゆるすて法ふこと一字僧とうやを
ひてこさるうんもあるいとうあるとうあく山一字の式始て
こを自乗無法ひとしきるさのこさふうとうあるし
摩ありたしあむしへきうあるうまいていたるとうとんとうん
へうまて白数とせんと思りいへうすれまる形のしらも
白毎まなて金行うあるを宗道の下知よりこうひて
なへしめんとうあいとうさまれうて人まるうあうあ尚
りのあり
引合のさいさき歌彩式の法うを変しのとまて
さまくしさうよ一数しうとしこれうのしまけていは
如とう別と用格と詩数とうあるとのあるへ

宗道流年のんはるして方式さしうまと
負法のう第よ小連よ宗のりのを組よ方つと
いひ立圓のいうとうて八円まてもうへしこと
うとうくくの場むきいらいもおうしくく云
方式行りわの式いうくくの立体はとうわて
はを境うらうとうへしの第竟さう合を
きたとしてとうてとうてとうさあ行りいを立の立う
ろんとやうんうあうしし
摩まのうんてせんりくくのとうらもみく
白数とこのりうんみうとさのくく割をんさ
河とのうまりうくうとうとうくしみく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

しるしのさうしさ
いらいはひのくいかやすれ
ちとしてこそとそこそ
ほそくあさそふかんん
新いせにそうもしとらそ
ろいはの正十新ちり書てる愛百れころんをこ
くのふんそ合人のをれき
さくいさのりさろうそと
ひそちりわりこさ南部蝦夷北秋のたひ
みてしそこそぬれ新うそ
かりとをちそをさこる
わをたを脇ちい刺師の
ひしいとろどたろ

るもれんをちくつろる事
さ海くれ白新ろくん分
ろ、嬉秋の白ふうさん
ぬ白ちにの白ふそつま
ろのひりたこ白
白ぬをいろりわは
いさんこそりわを
てんをさそそ事をこの
書ものまくてあしく
或いを新くを書しうり
にちつをねまし時の河

えてくらのりふ雅経
をそ〳〵の何いみるとを逢の義戒にてをそらくあくら
町こたをんをあり〳〵りけし壽夢のをろに部
をんをすをといひて鬱鬱のんふ仙くろほを〇に義
をものちひ逢をとうをすあ〳〵ふをうに業風を
ふるゆト丶

十十四